

留 学 報 告 書

平成 28 年 6 月 6 日

学 部 法文 学科・課程 言語文化

氏 名 横山竜一郎

※ 留学先大学での成績証明書を添付すること。（島根大学に直接送付される場合はよい）

1. 留学先大学・学部 国名 アーカンソー大学

	大学名	アメリカ合衆国
現地到着日（	2015年 8月 14日）	授業開始日（ 2015年 8月 24日）
現地出発日（	2016年 5月 22日）	授業終了日（ 2016年 5月 12日）

2. 日本を出発するまでの主な手続き及び準備

語学面： TOEFL又はIELTSでの必要なスコアを取得

島根大学での試験（面接と筆記）

諸手続き： パスポート取得、VISAの申請、飛行機チケット予約

留学先に送る書類の提出（Statement of Purpose、寮やミールプランの希望など）

留学先で履修する授業の選択（出発前に履修登録ができない場合があるので、大学の

ホームページなどでシラバスを確認しておくといいです）

準備： 持っていく荷物のパッキング

3. 自宅から留学先大学までの交通手段（乗物の種類、乗り換え地、所要時間）

出雲空港→羽田空港： 飛行機 / 約1時間半

羽田空港→成田空港： リムジンバス / 約1時間半

成田空港→アトランタ国際空港： 飛行機 / 約12時間半

アトランタ国際空港→XNA空港： 飛行機 / 約1時間

XNA空港→アーカンソー大学： 現地の学生の車 / 約45分

※成田空港からXNA空港までは乗る飛行機や時期、価格などで経由箇所や所要時間が異なります。

XNA空港からアーカンソー大学まではシャトルバスが走っていて事前の予約が可能ですが、僕の場合

現地の学生がボランティアで迎えに来てくれました。

4. 留学先大学での各種手続きの仕方

特に必要な手続きはないが、最初に国際課に行って、学費の払い方などを教わるとよい。

5. 留学生へのオリエンテーションの内容及びプレースメントテストについて

授業開始の一週間ほど前からオリエンテーションが始まり、一週間の間様々なイベントがあり、一覧の

プリントを配られます。僕は全員参加のものだけ行きましたが、内容としてはキャンパスの案内など生活
する上で必要となる情報を知るもの、現地の学生や他国からの留学生との交流をするものが主でした。後者
のイベントで知り合う学生は専攻が異なる人ばかりで、以降会うことは無かったです。プレースメンステ
ストは受けていないので分かりません。

6. 授業の受け方、ペーパー及び試験の傾向等について

授業は大量の予習や準備をすることが前提です。ホワイトボードやスライドを使用しない先生も多いので
話された内容をノートにとる必要があります。当然これにはリスニングの力が要求されますが、そもそも留

学に必要な試験で問われているはずなので、あまり苦労しませんでした。ペーパーや試験の内容は授業によって異なるものの、勉強や準備に時間がかかり、かつ普通の授業の予習も同時にしなければいけないので、学期のはじめにシラバスを見て計画を立てることをおすすめします。参考になるかわかりませんが、僕の例であれば、秋学期と春学期で計8つの授業を取り、ペーパーの総数は約100枚、試験は20回程度でした。

7. 留学先大学で学んだ科目のうち特に良かったもの、後輩に勧めたいもの

僕は専門のイギリス文学に関する授業を多く履修したので、後輩の方々に参考にならないかもしれませんが、Joseph Candido教授の文学の授業が最も面白かったです。特に、大学院生と学部生10人ずつで受けるシェイクスピアの授業は、予習や試験は大変だったものの非常に楽しく勉強することができました。全体としては、シラバスや評判から、授業内容が自分にとって面白そうなものを選ぶことを勧めます。

8. 留学先大学の住居の種類等について、後輩にどのような寮・アパートを勧めるか

住居の種類としては、キャンパス内 (On Campus) の寮か、キャンパス外 (Off Campus) の寮あるいはアパートの選択肢があります。僕はキャンパス内のHolcombe Hallに住んでいました。この寮は食堂や図書館、講義棟などへの移動が便利で、冬休みの間も唯一開いているのでなかなか良いと思います。一人部屋と二人部屋とがありますが、僕は費用面から二人部屋を選びました。しかし、ルームメイトに邪魔されず自分の好きなペースで生活することを優先すれば、結果的に一人部屋を選んでもよかったかなと思っています。

9. 寮・アパート生活での注意、生活の様子 (行事など) , 困ったこと, ルームメイトとの付き合い方, (いつから入れるのか, 寮の開閉, 寮が閉鎖中の滞在場所等)

寮は秋学期の始まる一週間~10日前から入ることができ、春学期が終了するまで開いていました。トイレやシャワー、洗濯ルームなどが設備されていて、他の居住者と共用ではあるものの、ほとんど毎日スタッフが清掃しているので、衛生面で困ることはありませんでした。Holcombe Hallは国際的な学生が多く住んでいることが特徴の一つで、毎週のように様々な国の学生が寮の中でイベントを開いていましたが、僕は一度も行きませんでした。生活の上で最も困ったのはルームメイトの存在でした。文化が違うといえど、二人部屋であるにもかかわらず部屋を散らかしてゴキブリが入ってきたり、夜中にパソコンでゲーム

を始めたりと、生活スタイルが合わなかったのでほとんど会話をしませんでした。

10. 留学先での金銭の扱い及び貴重品の管理について

(どのような口座を利用したか、現金とかカードの利用は、自宅からの送金はどうしたか等)

日本のクレジットカード (VISAカード) を二枚持っていき、ほとんどそれだけで済みました。一応現金もあれば安心ですが、向こうはカードが圧倒的多数なので、あまり持つていく必要は感じません。

11. キャンパス案内 (どんなとき、どこへ行けばよいか等)

食事は食堂、日用品で買いたいものがあればキャンパス内のウォルマート、勉強するときは図書館、パソコンが使いたいときはユニオン (学生会館) 内にあるコンピュータールームに行けばよいです。これらは普段行く場所ですが、病気になったらキャンパス内にある病院に行ったらよいかもしれません。

12. 現地案内 (買物, 銀行, レストラン, 理髪店, 美容院等の様子)

田舎なのであまりこれといった場所はありません。大学近くのディクソンストリートにはいくつかレストランやバーがあるので、行ってみるといいと思います。

13. 失敗談 (どんな小さなことでも)

特にありませんでしたが、ルームメイトと気が合わなかったなのでその辺りは失敗かもしれません。

14. 病気になった場合の対応について (医療費はどのようになっていたか、保険等はどのようにしたか)

あまり大きな病気にはなりませんでしたが、風邪程度であれば薬で治ると思います。

15. お世話になった方々

学部の先生たちにはお世話になりました。また、現地の日本人学生からは貴重な情報を教えてもらいました。

16. 留学先国内旅行について（場所，手段，費用，旅行社等）

帰国前にニューヨークに飛行機で行きました。飛行機代は片道400ドル程度で、旅行中もあまりたくさんお金を使わないようにしていました。ニューヨークはアメリカでも物価が高いですが、美術館などの施設は学生割引がある場所がほとんどなのでお得です。

17. 気候と服装について

夏は暑いので半袖一枚で過ごせますが、10月終わりごろから3月末ぐらいまでは気温が下がるので、冬前に現地の古着屋でコートを一枚購入しました。雨や雪とはほぼ無縁なのでその点についてはあまり心配する必要はありませんが、小さい折りたたみ傘を一本持っていけば安心です。

18. 日本からぜひ持っていきたいもの（学用品，衣服，食品，薬，運転免許証等）

最低限の衣服、筆記用具、コンタクトレンズなどの必要な日用品は持っていきましたが、あまりたくさん荷物をもっていかないように心がけました。大体のものは結局現地で調達した方が楽ですし、帰りはお土産や教科書などで荷物が増えるからです。

19. 留学に際し最も役立った本は（専門書，旅行案内書を含めて）

本は特に使わず、必要な情報はインターネットで集めました。正直、事前に情報を集めすぎるより現地ですべてのことに驚く方が楽しいと思います。

20. ホームステイの依頼方法

ホームステイはしなかったのでよくわかりません。

21. 留学費用について

1) 旅費	(往) 10万 円, (復) 10万 円
2) 準備費用	_____ 円
3) 大学へ納入する費用	_____ 円
授業料 (年間合計)	約50万 円 (島根大学授業料)
保険等その他の費用	_____ 円
4) 住居費 (光熱費等含む)	約80万 円
5) 衣服代, その他雑費	約3万 円
6) 帰国時の土産代, 郵送料等	約3万 円
7) 留学先国内旅行費用	約10万 円
8) 上記を含めその他すべてを含めた合計金額	約170万 円
現地通貨 約\$17,000	日本円換算 約170万 円

22. 帰国時の荷物の作り方, 送り方等

荷物を送ることはしませんでした。キャリーバッグ二つと手持ちのバッグに全て入れました。片方のキャリーバッグは授業で使用した本だけでいっぱいになり、もう片方のキャリーバッグはお土産だけでいっぱいになってしまったので、送る方が負担は少ないかもしれません。

23. 留学して得たこと (全般についての感想文)

英語力はもちろんですが、専門の英文学の授業はたくさん取ったので文学についての知識が広がったり、作品の読み方が大きく変わったりしました。

もう少し一般的な内容で得たことを挙げるなら、メンタル面が強化されたことでしょうか。英語が第二言語である自分は、英語の運用能力という点でアメリカ人と競うことはほとんど不可能ですから、ものの考え方、レポートの質など、語学的な面以外の部分で競おうと思いました。どうしても留学生は大学側からお客扱いされがちになるので、そうならないように、自分のペースをなるべく崩さずに勉強することを心がけ